



報告書
2020/3/18

基本概要



海ノ民話のまちプロジェクトとは

「海ノ民話のまちプロジェクト」は、日本財団が推進する「海と日本プロジェクト」の一環として実施するもので、海と深く関わりを持つ日本という国の「海との関わり」と「地域の学び」を、子供たちに伝え語り継ぐことを目的としたプロジェクトです。

本プロジェクトでは、日本中に残された海にまつわる民話を発掘し、その民話のストーリーとその民話に込められた「思い」「警鐘」「教訓」を、親しみやすいアニメ等の映像表現で、次の世代を担う子供たちへ、そして、さらに次の世代へと語り継いでいきます。

日本財団「海と日本プロジェクト」とは

日本財団「海と日本プロジェクト」とは、2015年に「海の日」20回目を記念し、日本財団の主導で推進しているプロジェクトです。次世代を担う子どもたちを中心として多くの方々に「海の日」の意義について認識を深めてもらうとともに、海への好奇心を持ってもらい、行動を起こすムーブメントを作り出すことを目指しています。

日本財団「海と日本プロジェクト」とは（こども向け）

みなさん、今、海にさまざまな問題が起こっていることをお気づきでしょうか？

最近では、秋刀魚の不漁や例年になく長引く梅雨のニュースをよく目にします。これらの問題は、実は海の変化が大きく関わっているのですが、海を変えてしまっているのは何を隠そう私達なのです。

あらゆる生命や私たちの生活にとって欠かせない海。

この海の問題を知り、自分ができることを考えて、行動しようとする人を全国で増やしていこうという「日本（にっぽん）財団 海と日本（にっぽん）プロジェクト」の下、「海ノ民話のまちプロジェクト」がはじまりました。



(民話名) 大根明神のアワビ祭り

宮城県・宮城郡七ヶ浜町

(海の学びのポイント) **海に生きる人々の信仰**

東北放送(株)

(あらすじ)

花渚浜（はなぶちはま）の沖合いに、かつて（869年）の大地震で、海の底に沈んだ大根明神があります。この辺りの岩礁には、昆布やアワビなど、豊かな海の恵みがありますが、ここに船が近づくと、どんなに波が静かな時でも逆波が起り、船が転覆しそうになるので、漁師たちは「大根様（おおねさま）」と崇め、めったに近づきません。

ある時、欲張りな漁師が、穴場となっている大根明神の近くで漁を行い、大きな利益を得ました。味をしめた漁師は、他の漁師たちの忠告にも耳を傾けず、神を畏れず、大根大明神で漁を続けました。しかし、ある時、突然海が荒れ始め、おおしけとなりました。船が波にもまれ、みしっと大きな音がしたかと思うと、船底に穴が開いてしまいました。漁師が水を汲み出しても間に合わず、ついに船は沈みかけてしまいます。船頭は、花渚浜の鼻節神社（はなぶしじんじゃ）の方に向かって手を合わせ「鼻節様、どうか助けてください！」と一心に拝みました。すると、今まで勢いよく吹き出していた水がぴたりと止み、船は無事、花渚浜にたどり着くことができました。船頭が船底を見てみると、なんと、そこには大きなアワビがくっついて、穴を塞いでいました。欲張りすぎた漁師は改心し、信心深く、漁でも節度を保つようになりました。

現在も、鼻節神社では、大根様の近くで獲れたアワビを供え、海の安全と大漁を祈る祭りが行われ続けています。

(学びのポイント)

①海流と生物

岩礁など、海底の地形による危険があると同時に、複雑な海底の地形が魚礁として豊かな漁場を形成していることを学ぶ。

②地形と自然災害への備え

過去の地震や津波などによる地殻変動があったことを知り、地域が繰り返す大災害に見舞われてきたことを再確認することができる。

③地域文化・民俗

「あわび祭り」という地域の伝統文化を知り、海の恵みに感謝する、太古の人々の祈りが連綿と現在に受け継がれているを学ぶ。

④地域産業

地域経済がアワビやウニなどの豊かな海産資源に恵まれていることを再認識し、大きなアワビ=エゾアワビの種苗生産施設が同町にて近年復興整備されたことを、内外に発信する契機となる。

(ストーリーへの落とし込み)

最終的にアワビ祭りが行われ、それが現在も行われていることを取り上げることで、海上の安全を祈願し、アワビに限らず海産資源に恵まれた環境を再認識し、海を大切にする心を育てる。



(民話名) 甚助さんの板子

静岡県・焼津市

(海の学びのポイント) **海のそなえ**

(株)テレビ静岡

(あらすじ)

甚助は日頃から小川のお地蔵様に手を合わせる信心深い青年だった。甚助は天気を予想するのが得意だった。この特技は、焼津の船乗りたちに重宝された。ある日、甚助は、焼津から讃岐へ向けて出航する船に乗ることになった。甚助は天気が荒れることを予見して、船頭に進言したが、一刻も早く荷を届けなければならなかった船は出港した。

船が沖を航海していると、甚助の言う通り、天候が荒れ始めた。船は台風に遭遇してしまったのだ。激しい荒波に揉まれ、船は砕け、船乗りたちは全員、海に投げ出されてしまった。甚助は、板子にしがみつき、荒波に耐え続けた。いつの間にか仲間たちの姿は見えなくなっていた。

真っ暗闇の中で、板にしがみつき、大海を漂っている甚助。心細く、死をも覚悟していると、目の前に仲間たちの姿が浮かび上がる。だが、皆はまるで、陸地にいるように海面に立っている。そして、あるものは、甚助の名を呼び続け、ある者は怒っている。皆、幽霊のようだ。ある者が、『甚助よ、念仏を唱えろ』と言うので、甚助が念仏を唱え始めると、足に激しい痛みを感じた。その瞬間、甚助は目を覚ました。甚助は力尽きて、もうろうとしていたところ、クラゲに刺された痛みから、意識を取り戻したのだった。もしも、眠ってしまっていたら、きっと助からなかっただろう。

陸を目指して泳ぎ続けた甚助は、大きな船に助けられ、たった一人の生還者となった。甚助は、日々、小川のお地蔵様にお参りと、天気が悪いときの仲間への忠告を欠かさない。

(学びのポイント)

①水難への対処

水難事故への備えや身の安全の確保など、海の危険に備える具体策を学ぶきっかけとする

②地域文化・民俗

小泉八雲作「漂流」の原作であることから、地域を題材とした文学に触れ、文化的な教養の醸成を図る。

③海とともに生きてきた人々の知恵

この民話から、災害、災難に合ったもの同士が励ましあう、連帯の姿勢、とりわけ、死んでもなお、仲間生きていてほしいと願う仲間たちの強い意志を感じ取る

(ストーリーへの落とし込み)

台風や津波などの自然災害が起きた時の対処の仕方や精神力を学び、最終的に一人だけが助かることで、より海の怖さを感じられる展開に。



(民話名) おたるがした

愛媛県・松山市

(海の学びのポイント) **災害と復興**

南海放送(株)

(あらすじ)

昔むかし、ある日の夕方、ゴーッという地鳴りと共に、島がグラグラ揺れました。長老が「山へ逃げろ。津波じゃ〜!」と言うと、村人たちは、ひとり残らず、みな山へ逃げました。そのすぐ後に、海がむくむくともりあがり、たちまち村をのみ込んでしまいました。村人たちは、長老の言う通り、全員が急いで逃げたので、誰一人として死なずにすみました。

命は助かりましたが、家はこわれ、畑も流されて、村にはガレキが散乱しています。大人たちが途方にくれていると、突然、子供たちが笑い出しました。「こんな時に、笑うとは何事じゃ」と、怒った村人たちが集まると、そこには、人間の物とは思えない、大きな「樽」が転がっています。「なんじゃこりゃ? 津波でわたらのものは何も残らんかったのに、こげん大きな樽がひとつだけあるぞ」と、誰かが言いました。すると、長老が「こりゃ、きっと、トンマの巨人の忘れ物じゃ」と、言いました。「そりゃええわい!」と、一人の村人が笑い出し、それにつられて、村人たちは、いつの間にか全員で「わっはっはっはっ」と、涙を流しながら笑いました。大声で笑うと、不思議と勇気が湧いてきます。畑はなくなりましたが、人々が食べ物に困ることはありませんでした。豊かな海の恵みにより、村人たちは力を得て、村の再建のため、働くことができました。

やがて新しい村ができました。樽のあったと言われる場所は、今も「おたるがした」と呼ばれています。

(学びのポイント)

①自然災害と災害への備え

- ・瀬戸内海において想定される自然災害の知識や備えの共有を行う契機とする。
- ・津波対策として、地震発生時における素早い避難行動の重要性など海から命を守る知識を再確認する。

②道徳

ユーモアにより、絶望に打ち勝つしなやかな感性をもつ村人たちが村の復興を実現させた姿に、連帯や協働の姿勢を学ぶ。

③自然、海の恩恵

「人間がつくったものとは思えない大きな樽」とは、壮大なスケールの海そのものの比喩であり、計り知れない海の大きさに畏怖の念を抱いて生きて来た過去の人々と、現代に生きる自分たちが、ひとつの地名によってつながっていることを知る。



(ストーリーへの落とし込み)

津波が来た時の対処法を学びつつ、村が無くなってから新しい村ができるまでの日本人の復興する力、海との付き合い方、心構えを学ぶ。
2018年の豪雨災害で被害を受けた中島の人々が村の復興に向き合う現在の姿と重ねることで、被災者への連帯を示し、防災意識向上を図る。



(民話名) 一里島

長崎県・佐世保市

(海の学びのポイント) **海と陸の成り立ち**

(株)テレビ長崎

(あらすじ)

長崎県は日本で最も多くの島があることで知られています。その数594島（県公式ウェブサイトより）。長崎県佐世保には208もの島からなる、豊かな自然に恵まれた、九十九島という海域があります。その九十九島のお話です。

むかしむかし、美しい月夜の晩に、佐世保の沖にある100の島たちがのんびりと話しをしていました。島の大将の松浦島が「今夜は、みんなで集まって、久しぶりにのんびり酒を飲もうじゃないか」と言いました。まわりの島々も賛成し、移動を始め、佐世保湾の中にあつまりました島たちはお酒を飲んだり、歌を歌って大いに宴を楽しみました。一番若い一里島は、初めての宴会に大喜び。宴会では、美しい景色に囲まれ、美味しいお酒と食べ物が次から次に振る舞われます。ここ（佐世保湾）はなんと居心地が良い所なのでしょう。一里島は、すっかりくつろいで、飲み過ぎてしまいました。しかし、夜が明ける前に元の場所に帰らなくては、島たちは二度と戻れなくなってしまいます。夜明けが近いことに気がついた大将の松浦島が「さあ、みんな、そろそろ帰るぞー！」と呼びかけましたが、酔って寝てしまった一里島だけは全く起きません。仲間の島々はどうすることもできず、一里島をおいて元の場所に帰りました。

こうして佐世保湾の中に一里島だけがぼつんと取り残されています。その時、百あった島が一つ減ったので、人々は、九十九島と呼ぶようになりました。

(学びのポイント)

①地理・風土

人間のように個性豊かな島々からなる、地形のなりたちや風土を学ぶ。

②地域の海と生物

九十九島の豊かな自然環境から、生物多様性の重要さを学ぶ。

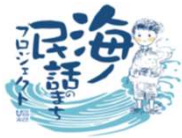
③自然の恩恵と地域の人々

美しい自然に育まれた、地域の人々により語りつがれたおらかな民話に触れ、壮大で美しい海の景色を賛美し、創造的に表現する力を育む。

(ストーリーへの落とし込み)

島を擬人化することで、ユーモラスに地形の成り立ちや地名の由来を学ぶことができる。また、九十九島の美しい景色を描くことで、自然豊かな島々があるからこそその真珠や魚介の養殖が盛んな漁場の存在も再認識できる。

「島は生きている」。島は岩（鉱物）の塊ではなく、動植物の集合体であり、有機的な生命力を持っている、と言うことに気づかせる。



(民話名) 奥武観音堂由来

沖縄県・南城市

(海の学びのポイント) **海で繋がる異国文化**

琉球放送(株)

(あらすじ)

琉球王国の周辺の海域は、様々な国の様々な船が忙しく行き交う、船の交通が活発なところでした。長い歴史の中で、沖縄の人々は、海を通して、多様な文化に触れてきました。

ある時、奥武島（おうじま）に、遭難した異国の船乗りたちがたどり着きました。島の人々は、彼らに着物を与え、焚き火で冷えた体を温めたり、お粥を炊いてあげたりして、手厚く介抱しました。聞けば、船乗りたちは朝鮮の新羅の者たちで、船が難破して、この場所に流れ着いたのだといいます。見知らぬ島に上陸するのをためらっていると、島の山頂に白衣の美女が現れて手招きするのが見えたので「天の助け」と、安心して上陸したのです。その美しい女の人は、この島の守り神で、優しい心を持った島の人々がいることを知らせたのでしょう。やがて、船は元どおりになり、船乗りたちは、故郷の新羅へと帰って行きました。

首里の王様に、新羅から金の仏様が贈られてきました。手紙には「仏像を『奥武』に安置してほしい」と綴られています。「奥武」という場所は何箇所もあるので、王様が困っていると「玉城奥武島の人々が異国の船乗りを助けた」という話が伝わってきました。そこで、王様は玉城の奥武島に観音堂を建て、観音様を安置しました。

現在も、5年ごとに奥武観音堂祭が行われています。先祖の良い行いと、朝鮮半島から送られた観音像が結びつき、海の神として島の人々を見守っています。

(学びのポイント)

①地域の歴史と多文化共生

多くの異なる国家に属する島々が隣接する地（海）域に生きる沖縄の人々から学ぶ、異国文化との接し方。

②道徳（海とともに生きてきた人々の心）

（海難事故に遭遇し）困っている人々に分け隔てなく奉仕・貢献する**おもいやりの心**や、感謝を忘れない異国の人々の礼儀にまなぶ。

③地域文化・民俗

地域で行われている祭の由来に触れ、現代に生きる自分たちが海を通して過去や異国の文化とつながっていることを再認識する。

(ストーリーへの落とし込み)

海で漁をする限り、遭難の危険は隣りあわせ。だからかそ国境問わず、互いに助け合うことで、海に生きる人々の心意気を学ぶ。

また、現在も奥武島海神祭では航海安全や豊漁、島民の健康・繁栄が祈願されてきた。中国と奥武島の島民とのつながりが海を通して何百年にもわたって続いていることから海とともに生きる日本人の誇りと心構えを学ぶ。



<選定委員長>

沼田 心之介 (監督/プロデューサー)

【プロフィール】

2005年 株式会社東北新社 入社

2012年 株式会社トマソン 入社

「ふるさと再生日本の昔ばなし」音響監督、脚本、演出担当、「ふるさとめぐり日本の昔ばなし」では監督を兼務。

2018年 文化庁若手アニメーター育成事業 あにめたまご「ミルキーパニック」監督

2019年 けものフレンズ2 アニメーションプロデューサー



<選定委員>

すぎはら ちゅん

(CGアニメーター、脚本家、映像作家、歌舞伎イヤホンガイド解説員)

【プロフィール】

2008年函館港イルミネーション映画祭シナリオ大賞にて「アイヌ神謡集」の著者である知里幸恵の人生を描いた長編シナリオで林海象賞を受賞。

2014年短編アニメーション映画「七五郎沢の狐」を発表し、国内外の約40の映画祭でノミネート、そして公式上映され、アルバニア国際環境映画祭 短編部門最優秀賞のほか3つの賞を受賞。

2014年～2017年「日本の昔ばなし」シリーズの脚本を担当。



<選定委員>

杉井 ギサブロー (演出家、アニメ監督、日本画家)

【プロフィール】

1940年、静岡県生まれ。アニメーション監督、日本画家。58年、東映動画に入社。『白蛇伝』(58)、『少年猿飛佐助』(59)、『西遊記』(60)のアニメーターとして活躍した後、61年に虫プロ創立に参加。TV「鉄腕アトム」の作画や演出、「悟空の大冒険」の総監督、「どろろ」の総監督などを担当。69年、田代敦巳らとグループ・タックを結成し、映画『クレオパトラ』(70)の原画や『哀しみのベラドンナ』(73)の作画監督・原画を務める。74年、『ジャックと豆の木』で劇場用アニメ監督デビュー。85年、宮澤賢治の『銀河鉄道の夜』をアニメ化し、毎日映画コンクール大藤賞を受賞。その後も『紫式部源氏物語』(87)、『あらしのよるに』(05)などを監督。10年、文化庁より映画功労賞が贈られた。



<選定委員>

糸曾 賢志 (映画監督、大学学部長、経営者)

【プロフィール】

映像監督 大阪成蹊大学 造形芸術学部長・教授。スタジオジブリの宮崎駿監督に師事後、実写アニメを問わず作品を発表。「遊戯王」カードイラスト、劇場アニメ「夢みる機械」演出、「SMAPコンサートツアー」映像監督、劇場版「進撃の巨人」オープニングプロデューサー、劇場アニメ「サンタ・カンパニー」総監督など手がけている。クラウドファンディング活用した作品製作に造詣が深く、ギネス世界記録にも登録されている。

認定表敬訪問

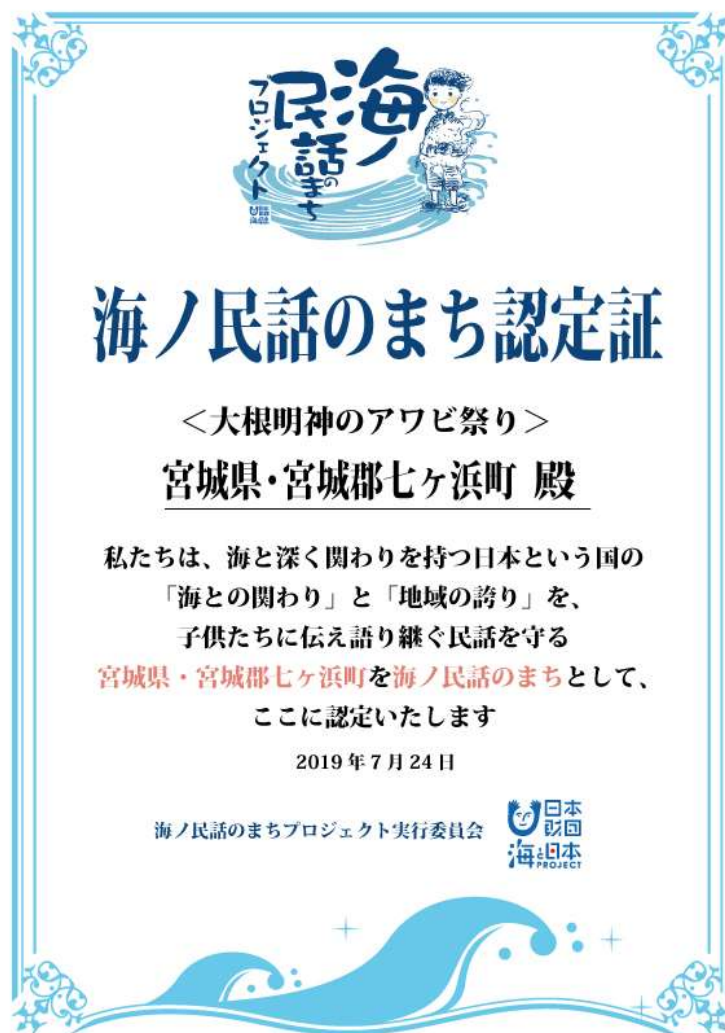
海ノ民話のまちに認定された市町村の首長に表敬訪問を実施。

海ノ民話のまちプロジェクト実行委員長の沼田氏と制作ディレクターの柴田氏が訪問し、認定証を授与。今後展開されるプロジェクトについて詳細を説明し、プロジェクトへの理解、協力を求めた。

また、地元で立ち上げた当プロジェクトの実行委員会のメンバーと民話のアニメ制作に向けて打合せを行った。

エリア	民話名	日程	時間	場所
宮城県	大根明神のアワビ祭り	10/1 (火)	15:00	七ヶ浜町役場
静岡県	甚助さんの板子	9/3 (火)	14:30	焼津市役所本庁舎5階 市長室
愛媛県	おたるがした	10/24 (木)	13:30	松山市役所本館3階 応接室
長崎県	一里島	8/27 (火)	13:30	佐世保市役所 5階 市長応接室
沖縄県	奥武観音堂由来	8/21 (水)	11:30	南城市役所応接室

<認定証 (例：宮城県)>



■表敬訪問概要書

訪問先市町村	宮城県宮城郡七ヶ浜町	
首長氏名	寺澤 薫 (てらさわ かおる)	
日時	10月1日 (火)	15 : 00 ~ 15 : 30
訪問先	訪問先 : 七ヶ浜町役場 応接室	
	担当者名 : 七ヶ浜町教育委員会 生涯学習課 文化財係 田村 正樹 (たむら まさき)	
	TEL : 022-357-2111 (代表)	
	住所 : 宮城県宮城郡七ヶ浜町東宮浜字丑谷辺5番地の1	
訪問メンバー	【海ノ民話のまちプロジェクト実行委員会 (総合運営事務局)】	
	沼田 心之介 (090-6011-0732) 柴田 英知 (090-4773-3745)	
	【七ヶ浜町・海ノ民話のまち実行委員会】	
	団体名 : 鼻節神社	氏名 : 総代 佐藤 梶信
	団体名 : 東北民俗の会	氏名 : 会長 佐藤 敏悦
団体名 : 七ヶ浜町歴史資料館 (七ヶ浜町教育委員会)	氏名 : 田村 正樹	
※鼻節神社 総代 佐藤 梶信 氏は、町議会の会期中のため欠席予定でしたが、ご出席いただけることになりました。		
訪問メンバー	【七ヶ浜町・海ノ民話のまち実行委員会 (東北放送株式会社)】	
	団体名 : 東北放送株式会社	氏名 : 藤森 真一
	【取材クルー (東北放送株式会社)】	
担当者① :	TAP 加藤 麻季 (ディレクター)	※河北新報にもご取材いただけそうですが、人数は不明です。
担当者② :	TAP 村上 真規 (カメラマン)	
担当者③ :	TAP 宮澤 志友 (音声)	
担当者④ :	TAP アシスタントディレクター	

計 10名 (予定)

【七ヶ浜町の出席者】

- ・町長 : 寺澤 薫 (てらさわ かおる)
- ・副町長 : 平山 良一 (ひらやま りょういち)
- ・教育長 : 武田 光彦 (たけだ みつひこ)
- ・七ヶ浜町教育委員会 生涯学習課長
- ・七ヶ浜町歴史資料館長
- ・七ヶ浜町歴史資料館 田村 正樹 (たむら まさき)

■構成表

時間	LAP	内容	備考
15:00	3'00"	●挨拶～名刺交換等	
15:03	3'00"	●認定証授与（沼田認定委員長） ・寺澤町長と沼田氏との握手カット ・寺澤町長、実行委員会、沼田氏 集合カット ・認定証を持つ寺澤町長カット	「海と日本プロジェクト」と「海ノ民話のまちプロジェクト」の横断幕を使用
15:06	3'00"	●フォトセッション	「海と日本プロジェクト」と「海ノ民話のまちプロジェクト」の横断幕を背景に使用
15:09	10'00"	●会談 ・「海と日本プロジェクト」主旨説明 ・「海ノ民話のまちプロジェクト」主旨説明 ・今回の認定にいたった経緯説明 ・今後の施策の説明	柴田氏 沼田氏 沼田氏 柴田氏
15:19	10'00"	●取材（寺澤町長） ・今回の認定を受けて ・市町村の海にまつわる魅力について ・「海ノ民話のまちプロジェクト」に期待すること ●取材（沼田氏・柴田氏） ・今後の民話アニメーションの活用について ・市町村の皆様にご挨拶	
15:29		●終了～後片付け	

■記録写真





■表敬訪問概要書

訪問先市町村	静岡県焼津市
首長氏名	中野 弘道 氏
日時	9月3日（火） 14：30～15：00
訪問先	訪問先：焼津市役所本庁舎5階 市長室
	担当者名：
	TEL：（代表）054-626-1111
	住所：静岡県焼津市本町2-16-32
訪問メンバー	【海ノ民話のまちプロジェクト実行委員会（総合運営事務局）】 沼田 心之介（090-6011-0732） 柴田 英知（090-4773-3745）
	【焼津・海ノ民話のまち実行委員会】 団体名：焼津小泉八雲記念館 氏名：仁科 雅喜 氏 団体名：焼津小泉八雲記念館 氏名：那須野 絢子 氏 団体名： 氏名： 団体名： 氏名： 団体名： 氏名：
	【アテンド】 エリア事務局名：焼津・海ノ民話のまち実行委員会事務局 株式会社テレビ静岡 営業局営業推進部 部長 遠藤 雅嗣 ほか4名
	【取材クルー】テレビ静岡 担当者①：ディレクター 担当者②：カメラマン 担当者③：アシスタント
焼津市 列席者	岡村教育委員会事務局長 杉本文化財課長 石原記念館担当係長

■構成表

時間	LAP	内容	備考
14:30	3'00"	●挨拶～名刺交換等	
14:33	3'00"	●認定証授与（沼田認定委員長） ・中野市長と沼田氏との握手カット ・中野市長、実行委員会、沼田氏集合カット ・認定証を持つ中野市長カット	「海と日本プロジェクト」と「海ノ民話のまちプロジェクト」の横断幕を使用
14:36	3'00"	●フォトセッション	「海と日本プロジェクト」と「海ノ民話のまちプロジェクト」の横断幕を背景に使用
14:39	10'00"	●会談 ・「海と日本プロジェクト」主旨説明 ・「海ノ民話のまちプロジェクト」主旨説明 ・今回の認定にいたった経緯説明 ・今後の施策の説明	柴田氏 沼田氏 沼田氏 柴田氏
14:49	10'00"	●取材（中野市長） ・今回の認定を受けて ・市町村の海にまつわる魅力について ・「海ノ民話のまちプロジェクト」に期待すること ●取材（沼田氏・柴田氏） ・今後の民話アニメーションの活用について ・市町村の皆様にとこと	
14:59		●終了～後片付け	

■記録写真





■表敬訪問概要書

訪問先市町村	愛媛県 松山市
首長氏名	梅岡 伸一郎 副市長
日時	10月24日 (木) 13:30~14:00
訪問先	訪問先：松山市役所本館3階 応接室
	担当者名：総合政策部坂の上の雲まちづくりチーム 奥岡奈保子 様
	TEL：089-948-6816
	住所：愛媛県松山市二番町四丁目7-2
訪問メンバー	【海ノ民話のまちプロジェクト実行委員会（総合運営事務局）】 沼田 心之介（090-6011-0732） 柴田 英知（090-4773-3745）
	【まつやま里島・海ノ民話のまち実行委員会】 団体名：まつやま里島ツーリズム連絡協議会 氏名：田中 政利様 団体名：松山市教育研修センター 氏名：金本 房夫様 団体名： 氏名： 団体名： 氏名： 団体名： 氏名：
	【まつやま里島・海ノ民話のまち実行委員会（南海放送株式会社）】 大西 元喜
	【取材クルー】株式会社テレビ長崎 担当者①：竹田 智恵 他2名 担当者②： 担当者③：

計8名

■構成表

時間	LAP	内容	備考
13:30	3'00"	●挨拶～名刺交換等	
13:33	3'00"	●認定証授与（沼田認定委員長） ・梅岡市長と沼田氏との握手カット ・梅岡市長、実行委員会、沼田氏 集合カット ・認定証を持つ梅岡市長カット	「海と日本プロジェクト」と「海ノ民話のまちプロジェクト」の横断幕を使用
13:36	3'00"	●フォトセッション	「海と日本プロジェクト」と「海ノ民話のまちプロジェクト」の横断幕を背景に使用
13:39	10'00"	●会談 ・「海と日本プロジェクト」主旨説明 ・「海ノ民話のまちプロジェクト」主旨説明 ・今回の認定にいたった経緯説明 ・今後の施策の説明	柴田氏 沼田氏 沼田氏 柴田氏
13:49	10'00"	●取材（梅岡市長） ・今回の認定を受けて ・市町村の海にまつわる魅力について ・「海ノ民話のまちプロジェクト」に期待すること ●取材（沼田氏・柴田氏） ・今後の民話アニメーションの活用について ・市町村の皆様にひとこと	
13:59		●終了～後片付け	

■記録写真





■表敬訪問概要書

訪問先市町村	長崎県 佐世保市
首長氏名	朝長 則男(ともなが のりお)
日時	8月27日 (火) 13:30~14:00
訪問先	訪問先：佐世保市役所 5階 市長応接室
	担当者名： 総務部秘書課 百谷 美保 課長補佐兼秘書係長
	TEL： 0956-25-9619
	住所： 佐世保市八幡町1番10号
訪問メンバー	【海ノ民話のまちプロジェクト実行委員会（総合運営事務局）】 沼田 心之介 (090-6011-0732) 柴田 英知 (090-4773-3745)
	【佐世保市・海ノ民話のまち実行委員会】 団体名：佐世保市立図書館 氏名：坂口周一館長 団体名：(公財)佐世保観光コンベンション協会 氏名：川口裕樹常務理事兼事務局長 団体名：(有)SK-iコーポレーション 氏名：中村徳裕代表取締役 団体名： 氏名： 団体名： 氏名：
	【佐世保市・海ノ民話のまち実行委員会（株式会社テレビ長崎）】 佐世保支社長 松本祐明 佐世保市松浦町2-21九十九島ビル8階 (090-4518-2828) 支社(0956-23-9371)
	【取材クルー】株式会社テレビ長崎 担当者①：平仙浩教 担当者②：小林利治 担当者③：甲斐拳士

計9名

■構成表

時間	LAP	内容	備考
13:30	3'00"	●挨拶～名刺交換等	
13:33	3'00"	●認定証授与（沼田認定委員長） ・朝長市長と沼田氏との握手カット ・朝長市長、実行委員会、沼田氏 集合カット ・認定証を持つ朝長市長カット	「海と日本プロジェクト」と「海ノ民話のまちプロジェクト」の横断幕を使用
13:36	3'00"	●フォトセッション	「海と日本プロジェクト」と「海ノ民話のまちプロジェクト」の横断幕を背景に使用
13:39	10'00"	●会談 ・「海と日本プロジェクト」主旨説明 ・「海ノ民話のまちプロジェクト」主旨説明 ・今回の認定にいたった経緯説明 ・今後の施策の説明	柴田氏 沼田氏 沼田氏 柴田氏
13:49	10'00"	●取材（朝長市長） ・今回の認定を受けて ・市町村の海にまつわる魅力について ・「海ノ民話のまちプロジェクト」に期待すること ●取材（沼田氏・柴田氏） ・今後の民話アニメーションの活用について ・市町村の皆様にご挨拶	
13:59		●終了～後片付け	

■記録写真





■表敬訪問概要書

訪問先市町村	沖縄県 南城市
首長氏名	瑞慶覧 長敏 (ずけらん ちょうびん)
日時	8月21日 (水) 11 : 30~12 : 00
訪問先	訪問先 : 南城市役所 応接室
	担当者名 :
	TEL : (代表) 098-917-5309
	住所 : 沖縄県南城市佐敷字新里1870番地
訪問メンバー	【海ノ民話のまちプロジェクト実行委員会 (総合運営事務局)】 沼田 心之介 (090-6011-0732) 柴田 英知 (090-4773-3745)
	【南城・海の民話のまち実行委員会】 団体名 : 氏名 : 団体名 : 氏名 : 団体名 : 氏名 : 団体名 : 氏名 : 団体名 : 氏名 :
	【南城・海の民話のまち実行委員会 (琉球放送)】 本社営業促進担当 仲本 克之
【取材クルー】琉球放送 担当者① : 担当者② : 担当者③ :	

計〇名

■構成表

時間	LAP	内容	備考
11:30	3'00"	●挨拶～名刺交換等	
11:03	3'00"	●認定証授与（沼田認定委員長） ・瑞慶覧市長と沼田氏との握手カット ・瑞慶覧市長、実行委員会、沼田氏 集合カット ・認定証を持つ瑞慶覧市長カット	「海と日本プロジェクト」と「海ノ民話のまちプロジェクト」の横断幕を使用
11:06	3'00"	●フォトセッション	「海と日本プロジェクト」と「海ノ民話のまちプロジェクト」の横断幕を背景に使用
11:09	10'00"	●会談 ・「海と日本プロジェクト」主旨説明 ・「海ノ民話のまちプロジェクト」主旨説明 ・今回の認定にいたった経緯説明 ・今後の施策の説明	柴田氏 沼田氏 沼田氏 柴田氏
11:19	10'00"	●取材（瑞慶覧市長） ・今回の認定を受けて ・市町村の海にまつわる魅力について ・「海ノ民話のまちプロジェクト」に期待すること ●取材（沼田氏・柴田氏） ・今後の民話アニメーションの活用について ・市町村の皆様にひとこと	
11:29		●終了～後片付け	

■記録写真



アニメ完成報告表敬訪問



■表敬訪問概要書

コロナウィルスの影響により中止



■表敬訪問概要書

訪問先市町村	静岡県焼津市
首長氏名	中野 弘道 氏
日時	2月12日 (水) 14:00~14:30
訪問先	訪問先：焼津市役所本庁舎5階 市長室
	担当者名：
	TEL：(代表) 054-626-1111
	住所：静岡県焼津市本町2-16-32
訪問メンバー	【海ノ民話のまちプロジェクト実行委員会 (総合運営事務局)】
	沼田 心之介 (090-6011-0732) 柴田 英知 (090-4773-3745)
	【焼津・海ノ民話のまち実行委員会】
	団体名：焼津小泉八雲記念館 氏名：仁科 雅喜 氏 団体名：焼津小泉八雲記念館 氏名：那須野 絢子 氏 団体名： 氏名： 団体名： 氏名： 団体名： 氏名：
焼津市 列席者	【アテンド】
	エリア事務局名：焼津・海ノ民話のまち実行委員会事務局 株式会社テレビ静岡 営業局営業推進部 部長 遠藤 雅嗣 ほか2名
	【取材クルー】テレビ静岡
	担当者①：記者 担当者②： 担当者③：
焼津市 列席者	岡村教育委員会事務局長 杉本文化財課長 石原焼津小泉八雲記念館担当係長

■構成表

時間	LAP	内容	備考
14:00	2'00"	●挨拶～名刺交換等	
14:02	5'00"	●アニメーション上映	
14:07	10'00"	●会談 ・アニメーション完成を受けて（フリートーク） ・上映会とフィールドワークの実施計画	沼田氏 柴田氏 実行委員会
14:17	5'00"	●取材（中野市長） ・今回のアニメーション完成を受けて ・「海ノ民話のまちプロジェクト」に期待すること ●取材（沼田氏・柴田氏） ・今後のアニメーションの活用について ・市町村の皆様にご挨拶	
14:22	3'00"	●フォトセッション	「海と日本プロジェクト」と「海ノ民話のまちプロジェクト」の横断幕を使用
14:25		●終了～後片付け	





■表敬訪問概要書

訪問先市町村	愛媛県松山市	
首長氏名	総合政策部坂の上の雲まちづくり担当部長 片本悦夫様	
日時	2月4日 (火)	11:00~11:30
訪問先	訪問先：松山市役所 会議室 (センタービル 4階 第4会議室)	
	担当者名：奥岡 奈保子様	部署名：坂の上の雲まちづくりチーム
	TEL： 089-948-6816	
	住所： 松山市二番町四丁目7-2 松山市役所 本館6階	
訪問メンバー	【海ノ民話のまちプロジェクト実行委員会 (総合運営事務局)】 沼田 心之介 (090-6011-0732) 柴田 英知 (090-4773-3745)	
	【まつやま里島・海ノ民話のまち実行委員会】 団体名：南海放送 (株) 氏名：清水啓介 団体名： 氏名： 団体名： 氏名：	
	【まつやま里島・海ノ民話のまち実行委員会 (南海放送株式会社)】 大西元喜	
	【取材クルー】南海放送株式会社 担当者①：竹田智恵 担当者②：島田暢生 担当者③：	

計6名

■構成表

時間	LAP	内容	備考
11:00	3'00''	●挨拶～名刺交換等	前回同メンバーであれば割愛
11:03	3'00''	●フォトセッション	「海と日本プロジェクト」と「海ノ民話のまちプロジェクト」の横断幕を使用
11:06	5'00''	●アニメーション上映	映像送出について事前に要確認
11:11	10'00''	●会談 ・アニメーション完成を受けてフリートーク ・上映会とフィールドワークの実施計画	実行委員会 沼田氏、柴田氏
11:21	5'00''	●取材（片本部長） ・今回のアニメーション完成を受けて ・「海ノ民話のまちプロジェクト」に期待すること ●取材（実行委員会） ・今後の民話アニメーションの活用について ・松山市の皆様にご挨拶	
11:26		●終了～後片付け	





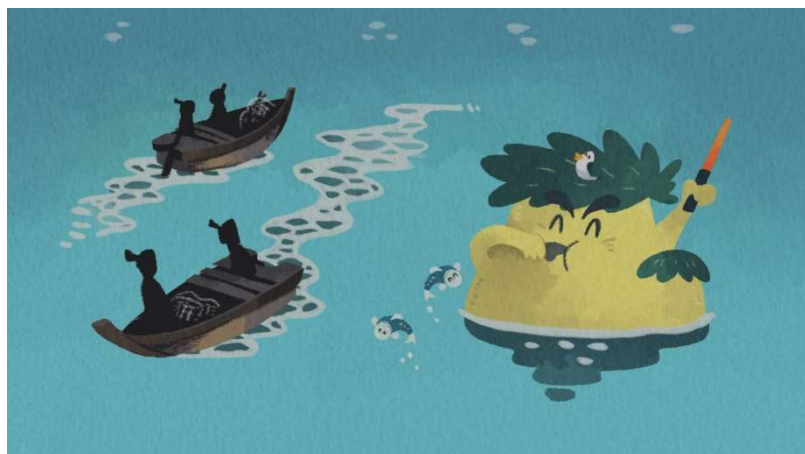
■表敬訪問概要書

訪問先市町村	長崎県 佐世保市
首長氏名	朝長 則男(ともなが のりお)
日時	2月18日 (火) 17:00~17:30
訪問先	訪問先：佐世保市役所 5階 市長応接室
	担当者名： 百谷 美保 課長補佐兼秘書係長
	TEL： 0956-24-1111 (内線2511)
	住所： 佐世保市八幡町1番10号
訪問メンバー	【海ノ民話のまちプロジェクト実行委員会 (総合運営事務局)】 沼田 心之介 (090-6011-0732) 柴田 英知 (090-4773-3745)
	【佐世保市・海ノ民話のまち実行委員会】 団体名：佐世保市立図書館 氏名：坂口 周一 団体名：(公財)佐世保観光コンベンション協会 氏名：川口 裕樹 団体名：(有)エスケイ・アイ・コーポレーション 氏名：中村 徳裕
	【佐世保市・海ノ民話のまち実行委員会 (株式会社テレビ長崎)】 佐世保支社長 松本祐明 (090-4518-2828)
	【取材クルー】株式会社テレビ長崎 担当者①：平仙浩教 担当者②： 担当者③：

計7名

■構成表

時間	LAP	内容	備考
17:00	3'00''	●挨拶～名刺交換等	前回同メンバーであれば割愛
17:03	3'00''	●フォトセッション	「海と日本プロジェクト」と「海ノ民話のまちプロジェクト」の横断幕を使用
17:06	5'00''	●アニメーション上映	映像送出について事前に要確認
17:11	10'00''	●会談 ・アニメーション完成を受けてフリートーク ・上映会とフィールドワークの実施計画	実行委員会 沼田氏、柴田氏
17:21	5'00''	●取材（朝長市長） ・今回のアニメーション完成を受けて ・「海ノ民話のまちプロジェクト」に期待すること ●取材（実行委員会） ・今後の民話アニメーションの活用について ・佐世保市の皆様にひとこと	
17:26		●終了～後片付け	





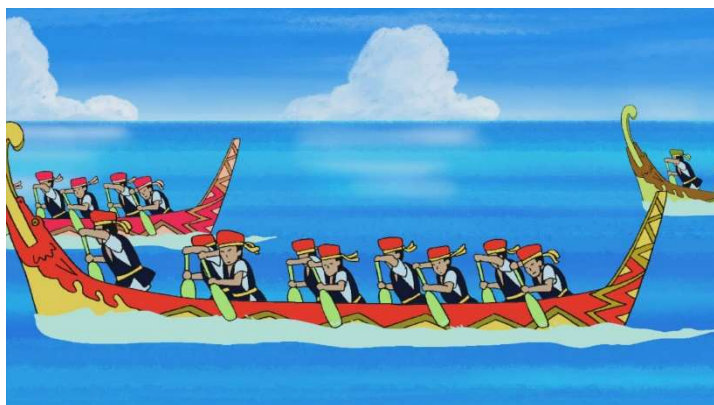
■表敬訪問概要書

訪問先市町村	沖縄県 南城市
首長氏名	瑞慶覧 長敏 (ずけらん ちょうびん)
日時	1月31日 (金) 14:00~14:30
訪問先	訪問先：南城市役所 応接室
	担当者名：
	TEL：(代表) 098-917-5309
	住所：沖縄県南城市佐敷字新里1870番地
訪問メンバー	【海ノ民話のまちプロジェクト実行委員会 (総合運営事務局)】
	沼田 心之介 (090-6011-0732) 柴田 英知 (090-4773-3745)
	【南城・海ノ民話のまちプロジェクト実行委員会】
	団体名：南城市教育委員会 氏名： 団体名：南城市奥武区 氏名： 団体名：NPO法人沖縄伝承話資料センター 氏名： 団体名： 氏名： 団体名： 氏名：
	【南城・海ノ民話のまちプロジェクト実行委員会 (琉球放送)】
本社営業促進担当 高良 誠	
【取材クルー】琉球放送	
担当者①： 担当者②： 担当者③：	

計6名

■構成表

時間	LAP	内容	備考
14:00	3'00"	●挨拶～名刺交換等	前回同様メンバーなので割愛
14:03	5'00"	●アニメーション上映（沼田認定委員長）	柴田氏がDVDで上映
14:08	10'00"	●会談 ・アニメについて市長の感想 ・上映会とフィールドワークの計画	市長 実行委員会 沼田氏 柴田氏
14:18	3'00"	●フォトセッション ・瑞慶覧市長と沼田氏との握手カット ・瑞慶覧市長、実行委員会、沼田氏 集合カット ・認定証を持つ瑞慶覧市長カット	「海と日本プロジェクト」と「海ノ 民話のまちプロジェクト」の横断 幕を背景に使用
14:21	5'00"	●取材（瑞慶覧市長） ・今回のアニメ完成を受けて ・「海ノ民話のまちプロジェクト」に期待すること ●取材（実行委員会） ・今後の民話アニメーションの活用について ・南城市の皆様にと	
14:26		●終了～後片付け	



上映会・フィールドワーク



上映会実施一覧

エリア	民話名	実施日	時間	場所	人数
宮城県	大根明神のアワビ祭り	2/29 (土)	11:00~12:00	七ヶ浜町 中央公民館	50人
<p><内容></p> <p>中央公民館で活動しているサークルなどが日頃の成果を発表・展示する“生涯学習フェスティバル”というイベントの一環として、「海ノ民話」の上映会を開催。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11:00~ 「海ノ民話のまち」プロジェクト実行委員会（柴田様、または沼田様）からプロジェクトの趣旨説明 ・11:05~ 「海ノ民話のまち」プロジェクト実行委員会（柴田様、または沼田様）から昨年制作したアニメ（5作品）の紹介 ・11:10~ 昨年制作したアニメ（作品）の上映（5分×5本） ・11:35~ 「海ノ民話のまち」プロジェクト実行委員会（柴田様、または沼田様）から「大根明神のアワビ祭り」選定の経緯の説明 「七ヶ浜町・海ノ民話のまち」実行委員会（佐藤梶信様、佐藤敏悦様など）から「大根明神のアワビ祭り」の紹介 ・七ヶ浜の海の豊かさ&特徴（岩礁）など 					
※宮城県はコロナウィルスの影響により中止					
静岡県	甚助さんの板子	2/29 (土)	9:30~12:00	焼津小泉八雲記念館	20人
焼津で生まれた物語『甚助さんの板子』を子供たちにも親しみやすいアニメーションで鑑賞					
※静岡県はコロナウィルスの影響により中止					
愛媛県	おたるがした	2/24 (月・祝)	9:30~12:00	松山市中島総合文化センター 松山市中島大浦2962番地	小学生と保護者30名程度
<p><内容></p> <ol style="list-style-type: none"> ①海と日本プロジェクト活動について説明 ②海ノ民話のまちプロジェクト実行委員会より 挨拶 ③アニメ「おたるがした」上映 ④地元民話編集者 などによる補足説明 					
長崎県	一里島	3/1 (日)		佐世保市立図書館 おはなしのへや	20人~30人
<p><内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「海と日本プロジェクト」「海ノ民話のまちプロジェクト」説明 2. 民話「一里島」の朗読（テレビ長崎アナウンサー） 3. アニメーション上映 4. 参加者にアンケート 上映会参加者にプレゼントを用意 					
※長崎県はコロナウィルスの影響により中止					
沖縄県	奥武観音堂由来	2/1 (土)	15:00~15:45	南城市奥武公民館	80人
<p><内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・奥武島の歴史に深くつながる観音堂にまつわるストーリーの語り。 ・それ以外にも沖縄に伝わる海にまつわる民話を語り手が語り。 ・奥武島に古くから伝わる実話に基づいた物語「奥武観音堂由来」のアニメーション作品の鑑賞し、海にまつわる民話の意義を考える。 					



フィールドワーク実施一覧

エリア	民話名	実施日	時間	場所	人数
宮城県	大根明神のアワビ祭り	2/29 (土)	13:00~	・鼻節神社 ・宮城県水産技術総合センター	20人
<p>・「大根明神のアワビ祭り」の舞台となった鼻節神社の見学 神社でのアワビ祭りの内容 大根明神の場所の説明 ※アワビ祭りで振る舞われるアワビの味噌和えの試食は、食材の手配可否を含め、今後の調整 ・宮城県水産技術総合センターでアワビ種苗施設の見学 ※施設側との見学の調整は今後</p> <p>■スケジュール(案) ※変更の可能性あり。 ・13:00~中央公民館 集合・出発(バスで移動) ・13:10~ 宮城県水産技術総合センター 到着 → アワビの種苗の生産施設を見学 ※施設側との見学の調整は今後 ・13:30~宮城県水産技術総合センター 出発 ・13:40~鼻節神社 到着 → 神社でのアワビ祭りの内容 大根明神の場所の説明 ・14:00鼻節神社 出発 ・14:10中央公民館 到着・解散</p>					
※宮城県はコロナウィルスの影響により中止					
静岡県	基助さんの板子	2/29 (土)	9:30~12:00	焼津小泉八雲記念館ほか	20人
<p>八雲も愛してやまなかった海の町、焼津の地を辿りながら 後世に残すべき古き良き焼津の姿を学ぶとともに 水難事故防止、防災力強化につなげることを目的に ライフセーバーによる講習会を実施</p>					
※静岡県はコロナウィルスの影響により中止					
愛媛県	おたるがした	2/24 (月・祝)	9:30~12:00	松山市中島総合文化センター 松山市中島大浦2962番地	小学生と保護者30人程度
<p>①「おたるがした」他、忽那諸島の民話 演劇上映 ②「おたるがした」伊予弁での語べ団体による朗読会 ③民話からの学びについて、意見交換会 ④海のそなえ について 災害(津波・豪雨など)時の対処方法など学習会 *海上保安部もしくは、地元消防関係者で調整中 ④オリジナルの『樽』に参加の子どもたちが、未来の夢などを描く</p>					
長崎県	一里島	3/1 (日)		展海峰、佐世保港	20人程度
<p>1. 上映会終了後 佐世保図書館発でバス移動 2. 展海峰から九十九島を見学 3. バスで移動中、車内から一里島を見学 4. 佐世保港で一里島を見学</p>					
※長崎県はコロナウィルスの影響により中止					
沖縄県	奥武観音堂由来	2/1 (土)	14:00~14:45	南城市奥武島海岸	20人
<p>難破した船がみしらぎに漂着した歴史を体感するため、乗船体験。 ハーリー船を陸にあげてオールを漕ぐ「アギバーリー」体験。 海に囲まれた沖縄で、困った人を助ける先人たちの思いやりの心と、感謝を忘れず観音堂を送り届けた異国の方々への畏敬の念を学ぶ。</p>					

日 程：2020年2月24日（月）
 時 間：9:50～12:00
 場 所：中島総合文化センター
 参加人数：31名

アニメーションの上映会・演劇・素語り・トークショー・防災講習を通して、民話から読み取れる津波対策として地震発生時の素早い非難行動の重要性を確認することができ、また、海産資源に恵まれた環境にあることを改めて再認識することができた。特に防災講習では、実際に自分達が住む地域で災害が起きた場合を想定した動きをシミュレーションするなど、学びを深く落とし込むことができた。参加した子供たちも前のめりになり、真剣に講習を受けていた。



日 程：2020年2月1日（土）
 時 間：14:00～15:45
 場 所：南城市奥武島
 参加人数：アニメ上映会120名
 フィールドワーク50名

難破した船がみしらぎに漂着した歴史を体感するため乗船体験し、子供たちは海から見た島の全景を珍しそうに眺めていました。続いて、ハーリー船を陸にあげてオールを漕ぐ「アギバーリー」も体験し、オールの重さや船の狭さに驚いていました。海に囲まれた沖縄で、困った人を助ける先人たちの思いやりの心と、感謝を忘れず観音堂を送り届けた異国の方々への畏敬の念を学びました。



プレスリリース

PRESS RELEASE

2019年9月20日



報道関係者各位

**宮城県七ヶ浜町を「海ノ民話のまち」として認定
認定委員長が七ヶ浜町長を表敬訪問し、認定証を授与
日時:2019年10月1日(火)15時~15時30分/場所:七ヶ浜町役場**

海ノ民話のまちプロジェクト実行委員会は、日本中に残された海にまつわる民話を発掘し、その民話のストーリーとその民話に込められた「想い」「警鐘」「教訓」を、親しみやすいアニメーションとして映像化しています。本プロジェクトは、次の世代を担う子供たちへ、そして、さらに次の世代へと“海”を語り継いでいくために始動しました。このたび、5つのエリアを「海ノ民話のまち」として認定。そのうちの1エリアである宮城県七ヶ浜町の寺澤 薫町長を、認定委員長をはじめとする委員会メンバーが表敬訪問し、「海ノ民話のまち」認定証を贈呈する運びとなりました。日程は10月1日(火)15時~15時30分、場所は七ヶ浜町役場となります。ご多忙の折、誠に恐縮ではございますが、万障お繰り合わせの上、ご取材いただけますと幸いです。

※「海ノ民話のまちプロジェクト」とは
日本財団が推進する「海と日本プロジェクト」の一環として実施。海と深く関わりを持つ日本という国の「海との関わり」と「地域の誇り」を、子供たちに伝え語り継ぐことを目的としたプロジェクトです。

※「海と日本プロジェクト」とは
2015年に「海の日」20回目を記念し、日本財団の主導で推進しているプロジェクト。次世代を担う子どもたちを中心として多くの方々に「海の日」の意義について認識を深めてもらうとともに、海への好奇心を持ってもらい、行動を起こすムーブメントを作り出すことを目指しています。

【宮城県七ヶ浜町に伝わる民話「大根明神のアワビ祭り」あらすじ】

花洲浜（はなぶちま）の沖合いに、かつて（869年）の大地震で、海の底に沈んだ大根明神があります。この辺りの岩礁には、昆布やアワビなど、豊かな海の恵みがありますが、ここに船が近づくと、どんなに波が静かな時でも逆波が起こり、船が転覆しそうになるので、漁師たちは「大根様（おおねさま）」と崇め、めったに近づきません。

ある時、言うことを聞かない漁師が、穴場となっている大根明神の近くで漁を行い、大きな利益を得ました。味をしめた漁師は、他の漁師たちの忠告にも耳を傾けず、神を畏れず、大根大明神で漁を続けました。しかし、ある時、突然海が荒れ始め、おおしけとなりました。船が波にもまれ、みしと大きな音がしたかと思うと、船底に穴が開いてしまいました。漁師が水を汲み出しても間に合わず、ついに船は沈みかけてしまいます。船頭は、花洲浜の鼻節神社（はなぶしじんじや）の方に向かって手を合わせ「鼻節様、どうか助けてください！」と一心に拝みました。すると、今まで勢いよく吹き出していた水がびたりと止み、船は無事、花洲浜にたどり着くことができました。船頭が船底を見てみると、なんと、そこには大きなアワビがくっついて、穴を塞いでいました。その漁師は改心し、信心深く、漁でも節度を保つようになりました。

現在も、鼻節神社では、大根様の近くで獲れたアワビを供え、海の安全と大漁を祈る祭りが行われ続けています。

【海ノ民話のまちプロジェクト 2019 活動概要】

2019年度、「海ノ民話のまちプロジェクト」では以下の活動を行っていく予定です。

- ・アニメーション完成報告表敬訪問
- ・アニメーション上映会
- ・アニメーションフィールドワーク



【公式サイト】

<http://minwa.uminohi.jp/>

【表敬訪問・概要】

日時	2019年10月1日(火) 15:00~15:30
会場	七ヶ浜町役場 応接室(宮城県宮城郡七ヶ浜町東宮浜字丑谷辺5番地の1)
プログラム内容	1. 認定証授与 2. フォトセッション 3. 会談 5. 囲み取材

<お問い合わせ先>

「七ヶ浜町・海ノ民話のまち実行委員会」事務局
(TBC東北放送 東京支社テレビ部 担当:藤森)
電話: 03-3543-5621 (平日 10:00~18:00)
メールアドレス: fujimori@tbc-sendai.co.jp

PRESS RELEASE

2019年8月27日



報道関係者各位

**静岡県焼津市を「海ノ民話のまち」として認定
認定委員長が焼津市長を表敬訪問し、認定証を授与**

海ノ民話のまちプロジェクト実行委員会は、日本中に残された海にまつわる民話を発掘し、その民話のストーリーとその民話に込められた「想い」「警鐘」「教訓」を、親しみやすいアニメーションとして映像化しました。本プロジェクトは、次の世代を担う子供たちへ、そして、さらに次の世代へと“海”を語り継いでいくために始動しました。このたび、5つのエリアを「海ノ民話のまち」として認定。そのうちの1エリアである焼津市の中野市長を、認定委員長をはじめとする委員会メンバーが表敬訪問し、「海ノ民話のまち」認定証を贈呈する運びとなりました。ご多忙の折、誠に恐縮ではございますが、万障お繰り合わせの上、ご取材いただけますと幸いです。

※「海ノ民話のまちプロジェクト」とは

日本財団が推進する「海と日本プロジェクト」の一環として実施。海と深く関わりを持つ日本という国の「海との関わり」と「地域の誇り」を、子供たちに伝え語り継ぐことを目的としたプロジェクトです。

※「海と日本プロジェクト」とは

2015年に「海の日」20回目を記念し、日本財団の主導で推進しているプロジェクト。次世代を担う子どもたちを中心として多くの方々に「海の日」の意義について認識を深めてもらうとともに、海への好奇心を持ってもらい、行動を起こすムーブメントを作り出すことを目指しています。

【焼津で生まれた物語「基助さんの板子」あらすじ】

万延元年、主人公の基助は19歳、福寿丸の船乗りであった。

7月10日の朝、福寿丸は船頭のまか8人で焼津を出発した。

讃岐に向けての航海であったが、11日の夜、紀州沖で台風に襲われ、船は転覆してしまう。

基助はとっさに1枚の船板に掴まった。

周りを見渡すと4人までは見つかったが、他の仲間の姿は既になかった。

荒波の中、4人の仲間のうちの1人も波間に消え、そのうち他の3人とも離れてしまった。

漸く夜は明けたものの、風も雨も波も酷く、治まる気配はない。

果たして基助さんの運命はいかに…

【海ノ民話のまちプロジェクト2019 活動概要】

2019年度、「海ノ民話のまちプロジェクト」では以下の活動を行っていく予定です。

- ・アニメーション完成報告表敬訪問
- ・アニメーション上映会
- ・アニメーションフィールドワーク

【公式サイト】

<http://minwa.uminohi.jp/>

【表敬訪問・概要】

日時	2019年9月3日(火) 14:30~15:00
会場	焼津市役所本庁舎5階 市長室 / 静岡県焼津市本町2-16-32
プログラム内容	1. 認定証授与 2. フォトセッション 3. 会談 4. 囲み取材

<お問い合わせ先>

「焼津・海ノ民話のまちプロジェクト実行委員会」事務局

電話：054-261-6113 (テレビ静岡営業推進部内)

メールアドレス：marine-project@sut-tv.co.jp

**PRESS RELEASE**

2019年10月〇日



報道関係者各位

愛媛県松山市を「海ノ民話のまち」として認定**認定委員長が松山市を表敬訪問し、認定証を授与****日時:2019年10月24日(木)13時30分~13時45分/場所:松山市役所**

海ノ民話のまちプロジェクト実行委員会は、日本中に残された海にまつわる民話を発掘し、その民話のストーリーとその民話に込められた「想い」「警鐘」「教訓」を、親しみやすいアニメーションとして映像化しました。本プロジェクトは、次の世代を担う子供たちへ、そして、さらに次の世代へと“海”を語り継いでいくために始動しました。このたび、5つのエリアを「海ノ民話のまち」として認定。そのうちの1エリアである愛媛県松山市を、認定委員長をはじめとする委員会メンバーが表敬訪問し、「海ノ民話のまち」認定証を贈呈する運びとなりました。日程は10月24日(木)13時30分~13時45分、場所は松山市役所となります。ご多忙の折、誠に恐縮ではございますが、万障お繰り合わせの上、ご取材いただけますと幸いです。

※「海ノ民話のまちプロジェクト」とは

日本財団が推進する「海と日本プロジェクト」の一環として実施。海と深く関わりを持つ日本という国の「海との関わり」と「地域の誇り」を、子供たちに伝え語り継ぐことを目的としたプロジェクトです。

※「海と日本プロジェクト」とは

2015年に「海の日」20回目を記念し、日本財団の主導で推進しているプロジェクト。次世代を担う子どもたちを中心として多くの方々に「海の日」の意義について認識を深めてもらうとともに、海への好奇心を持ってもらい、行動を起こすムーブメントを作り出すことを目指しています。

【愛媛県松山市中島に伝わる民話「おたるがした」あらすじ】

松山市中島に伝わる民話のひとつです。地震が起き、津波が村をのみ込んでしまいましたが、村の長老がいち早く知らせたため、避難していたため、村人たちの命は助かりました。しかし、家や畑は甚大な被害を被りました。村人たちが途方にくれる中、子どもたち大きな樽を見つけて笑いはじめ、長老が子どもたちに合わせて冗談を言うことで、村人たちが皆、大声で笑いだしました。畑は流されましたが、大声で笑うことで勇気が出て、豊かな海の恵みを受け、村人たちは村の再建に励むことができました。その舞台となり、樽があったとされる場所は「おたるがした」と呼ばれています。

【海ノ民話のまちプロジェクト 2019 活動概要】

2019年度、「海ノ民話のまちプロジェクト」では以下の活動を行っていく予定です。

- ・アニメーション完成報告
 - ・アニメーション上映会
 - ・アニメーションフィールドワーク
- 【公式サイト】

<http://minwa.uminohi.jp/>



【表敬訪問・概要】

日時	2019年10月24日(木) 13:30~13:45
会場	松山市役所本館3階 応接室(松山市二番町4丁目7-2)
プログラム内容	1. 認定証授与 2. 歓談 3. フォトセッション 4. 囲み取材

＜お問い合わせ先＞

「まつやま里島・海ノ民話のまちプロジェクト実行委員会」
(RNB南海放送) 担当: 大西 元喜 (営業局イベント推進部)
電話: 089-915-2380 メールアドレス: m.onishi@rmb.co.jp

PRESS RELEASE

2019年8月19日



報道関係者各位

**長崎県佐世保市を「海ノ民話のまち」として認定
認定委員長が朝長市長を表敬訪問し、認定証を授与
日時:2019年8月27日(火)13時30分~14時/場所:佐世保市役所**

海ノ民話のまちプロジェクト実行委員会は、日本中に残された海にまつわる民話を発掘し、その民話のストーリーとその民話に込められた「想い」「警鐘」「教訓」を、親しみやすいアニメーションとして映像化しました。本プロジェクトは、次の世代を担う子供たちへ、そして、さらに次の世代へと“海”を語り継いでいくために始動しました。このたび、5つのエリアを「海ノ民話のまち」として認定。そのうちの1エリアである長崎県佐世保市の朝長市長を、認定委員長をはじめとする委員会メンバーが表敬訪問し、「海ノ民話のまち」認定証を贈呈する運びとなりました。日程は8月27日(火)13時30分~14時、場所は佐世保市役所5階市長応接室となります。ご多忙の折、誠に恐縮ではございますが、万障お繰り合わせの上、ご取材いただけますと幸いです。

※「海ノ民話のまちプロジェクト」とは

日本財団が推進する「海と日本プロジェクト」の一環として実施。海と深く関わりを持つ日本という国の「海との関わり」と「地域の誇り」を、子供たちに伝え語り継ぐことを目的としたプロジェクトです。

※「海と日本プロジェクト」とは

2015年に「海の日」20回目を記念し、日本財団の主導で推進しているプロジェクト。次世代を担う子どもたちを中心として多くの方々から「海の日」の意義について認識を深めてもらうとともに、海への好奇心を持ってもらい、行動を起こすムーブメントを作り出すことを目指しています。

【長崎県佐世保市に伝わる民話「一里島」あらすじ】

長崎県は日本で最も多くの島があることで知られています。その数594島(県公式ウェブサイトより)。長崎県佐世保には208もの島からなる、豊かな自然に恵まれた、九十九島という海域があります。

その九十九島のお話です。

むかしむかし、美しい月夜の晩に、佐世保の沖にある100の島たちがのんびりと話しをしていました。島の大將の松浦島が「今夜は、みんなで集まって、久しぶりにのんびり酒を飲もうじゃないか」と言いました。まわりの島々も賛成し、移動を始め、佐世保湾の中にあつまりました島たちはお酒を飲んだり、歌を歌って大いに宴を楽しみました。一番若い一里島は、初めての宴会に大喜び。宴会では、美しい景色に囲まれ、美味しいお酒と食べ物次から次に振る舞われます。ここ(佐世保湾)はなんと居心地が良い所なのでしょう。一里島は、すっかりくつろいで、飲み過ぎてしまいました。しかし、夜が明ける前に元の場所に帰らなくては、島たちは二度と戻れなくなってしまいます。夜明けが近いことに気がついた大將の松浦島が「さあ、みんな、そろそろ帰るぞー!」と呼びかけましたが、酔って寝てしまった一里島だけは全く起きません。仲間の島々はどうすることもできず、一里島をおいて元の場所に帰りました。

こうして佐世保湾の中に一里島だけがぼつんと取り残されています。

その時、百あった島が一つ減ったので、人々は、九十九島と呼ぶようになりました。

【海ノ民話のまちプロジェクト2019 活動概要】

2019年度、「海ノ民話のまちプロジェクト」では以下の活動を行っていく予定です。

- ・アニメーション完成報告表敬訪問
- ・アニメーション上映会
- ・アニメーションフィールドワーク



【公式サイト】

<http://minwa.uminohi.jp/>

【表敬訪問・概要】

日時	2019年8月27日(火) 13:30~14:00
会場	佐世保市役所 5階市長応接室(佐世保市八幡町1-10)
プログラム内容	1. 認定証授与 2. フォトセッション 3. 会談 5. 囲み取材

＜お問い合わせ先＞

「海ノ民話のまちプロジェクト実行委員会」
(KTNテレビ長崎) 担当: 松本 祐明 (佐世保支社)
電話: 0956-23-9371 メールアドレス: hiroaki@ktn.co.jp

PRESS RELEASE

2019年8月9日



報道関係者各位

沖縄県南城市「海ノ民話のまち」として認定**認定委員長が瑞慶覧市長を表敬訪問し、認定証を授与****日時:2019年8月21日(水)11時30分~12時00分/場所:南城市役所**

海ノ民話のまちプロジェクト実行委員会は、日本中に残された海にまつわる民話を発掘し、その民話のストーリーとその民話に込められた「想い」「警鐘」「教訓」を、親しみやすいアニメーションとして映像化しました。本プロジェクトは、次の世代を担う子供たちへ、そして、さらに次の世代へと“海”を語り継いでいくために始動しました。このたび、5つのエリアを「海ノ民話のまち」として認定。そのうちの1エリアである沖縄県南城市の瑞慶覧市長を、認定委員長をはじめとする委員会メンバーが表敬訪問し、「海ノ民話のまち」認定証を贈呈する運びとなりました。日程は8月21日(水)11時30分~12時00分、場所は南城市役所となります。ご多忙の折、誠に恐縮ではございますが、万障お繰り合わせの上、ご取材いただけますと幸いです。

※「海ノ民話のまちプロジェクト」とは

日本財団が推進する「海と日本プロジェクト」の一環として実施。海と深く関わりを持つ日本という国の「海との関わり」と「地域の誇り」を、子供たちに伝え語り継ぐことを目的としたプロジェクトです。

※「海と日本プロジェクト」とは

2015年に「海の日」20回目を記念し、日本財団の主導で推進しているプロジェクト。次世代を担う子どもたちを中心として多くの方々に「海の日」の意義について認識を深めてもらうとともに、海への好奇心を持ってもらい、行動を起こすムーブメントを作り出すことを目指しています。

【沖縄県南城市に伝わる民話「観音堂由来」あらすじ】

琉球王国の周辺の海域は、様々な国の様々な船が忙しく行き交う、船の交通が活発なところでした。長い歴史の中で、沖縄の人々は、海を通して、多様な文化に触れてきました。

ある時、奥武島(おうじま)に、遭難した異国の船乗りたちがたどり着きました。島の人々は、彼らに着物を与え、焚き火で冷えた体を温めたり、お粥を炊いてあげたりして、手厚く介抱しました。聞けば、船乗りたちは朝鮮の新羅の者たちで、船が難破して、この場所に流れ着いたのだといいます。見知らぬ島に上陸するのをためらっていると、島の山頂に白衣の美女が現れて手招きするのが見えたので「天の助け」と、安心して上陸したのです。その美しい女の人は、この島の守り神で、優しい心を持った島の人々がいることを知らせたのでしょう。やがて、船は元どおりになり、船乗りたちは、故郷の新羅へと帰って行きました。

首里の王様に、新羅から金の仏様が贈られてきました。手紙には「仏像を『奥武』に安置してほしい」と綴られています。「奥武」という場所は何箇所もあるので、王様が困っていると「玉城奥武島の人々が異国の船乗りを助けた」という話が伝わってきました。そこで、王様は玉城の奥武島に観音堂を建て、観音様を安置しました。

現在も、5年ごとに奥武観音堂祭が行われています。先祖の良い行いと、朝鮮半島から送られた観音像が結びつき、海の神として島の人々を見守っています。



【海ノ民話のまちプロジェクト 2019 活動概要】

2019年度、「海ノ民話のまちプロジェクト」では以下の活動を行っていく予定です。

- ・アニメーション完成報告表敬訪問
- ・アニメーション上映会
- ・アニメーションフィールドワーク

【公式サイト】

<http://minwa.uminohi.jp/>

【表敬訪問・概要】

日時	2019年8月21日(水) 11:30~12:00
会場	南城市役所 市長応接室(沖縄県佐敷新里1870番地)
プログラム内容	1. 認定証授与 2. フォトセッション 3. 会談 5. 囲み取材

<お問い合わせ先>

「南城・海ノ民話のまちプロジェクト実行委員会」
事務局 (RBC琉球放送) 担当: 仲本克之
電話: 080-6495-7050 メールアドレス: katsuyuki@rbc.co.jp



※コロナウィルスの影響により中止

PRESS RELEASE

2020年2月21日

報道関係者各位



七ヶ浜町「海ノ民話のまち」アニメが完成
認定委員長が七ヶ浜町長を表敬訪問し、完成アニメのお披露目
日時:2020年2月28日(金)14時00分～14時30分/場所:七ヶ浜町役場

海ノ民話のまちプロジェクト実行委員会は、日本中に残された海にまつわる民話を発掘し、その民話のストーリーとその民話に込められた「想い」「警鐘」「教訓」を、親しみやすいアニメーションとして映像化する取り組みを行っております。本プロジェクトは、次の世代を担う子供たちへ、そして、さらに次の世代へと“海”を語り継いでいくために始動しました。このたび、「海ノ民話のまち」として認定された宮城県七ヶ浜町の寺澤 薫町長を、認定委員長をはじめとする実行委員会メンバーが表敬訪問し、「海ノ民話のまち」七ヶ浜町を舞台に制作されたアニメ「大根明神のアワビ祭り」の完成を報告する運びとなりました。ご多忙の折、誠に恐縮ではございますが、万障お繰り合わせの上、取材いただきたくお願いいたします。

※「海ノ民話のまちプロジェクト」とは

日本財団が推進する「海と日本プロジェクト」の一環として実施。海と深く関わりを持つ日本という国の「海との関わり」と「地域の誇り」を、子供たちに伝え語り継ぐプロジェクトです。

※「海と日本プロジェクト」とは

2015年に「海の日」20回目を記念し、日本財団の主導で推進しているプロジェクト。次世代を担う子どもたちを中心として多くの方々から「海の日」の意義について認識を深めてもらうとともに、海への好奇心を持ってもらう、行動を起こすムーブメントを作り出すことを目指しています。

【公式サイト】 <http://minwa.uminohi.jp/>

【表敬訪問・概要】

日時	2020年2月28日(金) 14時00分～14時30分
会場	七ヶ浜町役場 応接室 & 第一会議室 (宮城県宮城郡七ヶ浜町東宮浜字丑谷辺5番地の1)
出席者 (予定)	<ul style="list-style-type: none"> ・七ヶ浜町長 寺澤 薫 様 ・七ヶ浜町 副町長 平山 良一 ・七ヶ浜町 教育長 武田 光彦 ・海ノ民話のまちプロジェクト実行委員会 認定委員長 沼田 心之介 様 ・海ノ民話のまちプロジェクト実行委員会 プロデューサー 柴田 英知 様 ・七ヶ浜町・海ノ民話のまち実行委員会 実行委員長 佐藤 梶信 様 (舞節神社 総代) ・七ヶ浜町・海ノ民話のまち実行委員会 実行委員 佐藤 敏悦 様 (東北民俗の会 会長)
プログラム	1. 完成アニメ上映 (第一会議室) 2. 会談 (応接室) 3. フォトセッション 4. 囲み取材

<お問い合わせ先>

「七ヶ浜町・海ノ民話のまち実行委員会」事務局
 (TBC 東北放送 東京支社テレビ部 担当: 藤森)
 電話: 03-3543-5621 (平日 10:00～18:00)

宮城県七ヶ浜町に伝わる民話 「大根明神のアワビ祭り」



【宮城県七ヶ浜町に伝わる民話「大根明神のアワビ祭り」あらすじ】

花刈浜（はなぶちま）の沖合いに、かつて貞観の大地震（869年）で、海の底に沈んだ大根明神があります。この辺りの岩礁には昆布やアワビなど豊かな海の恵みがありますが、ここに船が近づくとどんなに波が静かな時でも逆波が起り、船が転覆しそうになるので、漁師たちは「大根様（おおねさま）」と崇め、めったに近づきません。

ある時、言うことを聞かない漁師が、穴場となっている大根明神の近くで漁を行い、大きな利益を得ました。味をしめた漁師は、他の漁師たちの忠告にも耳を傾けず、神を畏れず、大根明神で漁を続けました。しかし、ある時、突然海が荒れ始め、おおしけとなりました。船が波にもまれ、みしと大きな音がしたかと思うと、船底に穴が開いてしまいました。漁師が水を汲み出しても間に合わず、ついに船は沈みかけてしまいます。船頭は、花刈浜の鼻節神社（はなぶしんじや）の方に向かって手を合わせ「鼻節様、どうか助けてください！」と一心に拝みました。すると、今まで勢いよく吹き出していた水がびたりと止み、船は無事、花刈浜にたどり着くことができました。船頭が船底を見てみると、なんと、そこには大きなアワビがくっついて、穴を塞いでいました。欲張りすぎた漁師は改心し、信心深く、漁でも節度を保つようになりました。

現在も鼻節神社では、大根様の近くで獲れたアワビを供え、海の安全と大漁を祈る祭りが行われ続けています。

<お問い合わせ先>

「七ヶ浜町・海ノ民話のまち実行委員会」事務局
(TBC東北放送 東京支社テレビ部 担当：藤森)
電話：03-3543-5621 (平日 10:00~18:00)



【海の民話のまちプロジェクト 活動予定】

2月29日（土）には七ヶ浜町で民話にまつわるフィールドワークやアニメ上映会も予定しています。

<上映会>

- 日 時：2020年2月29日（土）11:00～12:00（予定）
- 場 所：七ヶ浜町生涯学習センター2階 集会室 A・B（宮城郡七ヶ浜町吉田浜字野山 5-9）
- 人 数：50名（先着順）
- 入場料：無料（※上映会は事前申し込みの必要はございません。当日会場に直接お越しください）
- 内 容：民話「大根明神のアヅビ祭り」の解説 & アニメの上映を行います。この他に、昨年度制作した全国の民話のアニメ5作品を上映。

<フィールドワーク>

- 日 時：2020年2月29日（土）13:00～15:00（予定）
- 場 所：生涯学習センター入口集合（現地集合・現地解散）※バスでの移動になります。
- 対 象：小学1～6年生
- 人 数：20名
- 参加費：無料（要・事前申込）
- プログラム：民話に登場する鼻節神社などを巡り、解説などを行います。
 - ・鼻節神社 … 民話に登場する鼻節神社を見学 & 解説
 - ・花淵灯台 … 灯台から、海上の大根明神の岩礁を望みます
 - ・宮城県水産技術総合センター … 県内唯一のアヅビ養殖施設を見学

<お問い合わせ先>

「七ヶ浜町・海ノ民話のまち実行委員会」事務局
(TBC 東北放送 東京支社テレビ部 担当：藤森)
電話：03-3543-5621（平日 10:00～18:00）

PRESS RELEASE

2020年2月3日



報道関係者各位

焼津で生まれた物語「甚助さんの板子」アニメーションが完成

認定委員長が焼津市長を表敬訪問し、お披露目

海ノ民話のまちプロジェクト実行委員会は、日本中に残された海にまつわる民話を発掘し、その民話のストーリーとその民話に込められた「想い」「警鐘」「教訓」を、親しみやすいアニメーションとして映像化しました。本プロジェクトは、次の世代を担う子供たちへ、そして、さらに次の世代へと“海”を語り継いでいくために始動しました。このたび、「海ノ民話のまち」として認定されたエリアの一つである焼津市の中野市長を、認定委員長をはじめとする委員会メンバーが表敬訪問し、焼津で生まれた物語「甚助さんの板子」のアニメーションの完成報告を行う運びとなりました。ご多忙の折、誠に恐縮ではございますが、万障お繰り合わせの上、ご取材いただけますと幸いです。

※「海ノ民話のまちプロジェクト」とは
日本財団が推進する「海と日本プロジェクト」の一環として実施。海と深く関わりを持つ日本という国の「海との関わり」と「地域の誇り」を、子供たちに伝え語り継ぐことを目的としたプロジェクトです。

※「海と日本プロジェクト」とは
2015年に「海の日」20回目を記念し、日本財団の主導で推進しているプロジェクト。次世代を担う子どもたちを中心として多くの方々に「海の日」の意義について認識を深めてもらうとともに、海への好奇心を持ってもらい、行動を起こすムーブメントを作り出すことを目指しています。

【焼津で生まれた物語「甚助さんの板子」あらすじ】

万延元年、主人公の甚助は19歳、福寿丸の船乗りであった。
7月10日の朝、福寿丸は船頭のほか8人で焼津を出発した。
讃岐に向けての航海であったが、11日の夜、紀州沖で台風に襲われ、船は転覆してしまう。
甚助はとっさに1枚の船板に掴まった。
周りを見渡すと4人までは見つかったが、他の仲間の姿は既になかった。
荒波の中、4人の仲間のうちの1人も波間に消え、そのうち他の3人も離れてしまった。
漸く夜は明けたものの、風も雨も波も酷く、治まる気配はない。
果たして甚助さんの運命はいかに…



【海ノ民話のまちプロジェクト 活動概要】

2020年2月29日(土)、焼津・海ノ民話のまち実行委員会では焼津小泉八雲記念館のご協力のもと、以下のイベントを実施する予定です。

- ・アニメーション上映会
- ・フィールドワーク

【公式サイト】

<http://minwa.uminohi.jp/>

【表敬訪問・概要】

日時	2020年2月12日(水) 14:00~14:30
会場	焼津市役所本庁舎5階 応接室 / 静岡県焼津市本町 2-16-32
プログラム内容	1. アニメーション上映 2. 会談 3. フォトセッション 4. 囲み取材

<お問い合わせ先>

「焼津・海ノ民話のまち実行委員会」事務局
電話：054-261-6113 (テレビ静岡営業推進部内)
メールアドレス：marine-project@sut-tv.co.jp

PRESS RELEASE

2020年1月27日

報道関係者各位



松山市「海ノ民話のまち」アニメが完成 認定委員長松山市を表敬訪問し、完成アニメのお披露目

日時:2020年2月4日(火)11時00分~11時30分/場所:松山センタービル1号館

海ノ民話のまちプロジェクト実行委員会は、日本中に残された海にまつわる民話を発掘し、その民話のストーリーとその民話に込められた「想い」「警鐘」「教訓」を、親しみやすいアニメーションとして映像化しました。本プロジェクトは、次の世代を担う子供たちへ、そして、さらに次の世代へと“海”を語り継いでいくために始動しました。このたび、「海ノ民話のまち」として認定された愛媛県松山市を、認定委員長が表敬訪問し、「海ノ民話のまち」松山市中島を舞台に制作されたアニメ「おたるがした」の完成を報告する運びとなりました。

ご多忙の折、誠に恐縮ではございますが、万障お繰り合わせの上、取材いただきたくお願いいたします。

※「海ノ民話のまちプロジェクト」とは

日本財団が推進する「海と日本プロジェクト」の一環として実施。海と深く関わりを持つ日本という国の「海との関わり」と「地域の誇り」を、子供たちに伝え語り継ぐプロジェクトです。

※「海と日本プロジェクト」とは

2015年に「海の日」20回目を記念し、日本財団の主導で推進しているプロジェクト。次世代を担う子どもたちを中心として多くの方々に「海の日」の意義について認識を深めてもらうとともに、海への好奇心を持ってもらい、行動を起こすムーブメントを作り出すことを目指しています。

【公式サイト】

<http://minwa.uminohi.jp/>

【表敬訪問・概要】

日時	2020年2月4日(火)11時00分~11時30分
会場	松山市役所会議室 松山センタービル1号館 4F (松山市三番町4丁目9-5)
出席者 (予定)	・松山市役所総合政策部坂の上の雲まちづくり担当部長 片本 悦央 ・海ノ民話のまちプロジェクト実行委員会 認定委員長 沼田 心之介 ・まつやま里島・海ノ民話のまち実行委員会 事務局 南海放送営業局イベント推進部 大西 元喜
プログラム	1、完成アニメ上映 2、会談 3、フォトセッション

【海ノ民話のまちプロジェクト 活動概要】

2月24日(月・祝)には、中島総合文化センターでアニメ上映会や、ワークショップも予定しています。

<お問い合わせ先>

主催：まつやま里島・海ノ民話のまち実行委員会事務局
担当者：事務局 南海放送 大西元喜
電話：090-5712-4781 メールアドレス：m.onishi@rnb.co.jp

松山市中島に伝わる民話 「おたるがした」



【愛媛県松山市中島に伝わる民話「おたるがした」あらすじ】

昔むかし、ある日の夕方、ゴーッという地鳴りと共に、島がグラグラ揺れました。長老が「山へ逃げろ。津波じゃ〜!」と言うと、村人たちは、ひとり残らず、みな山へ逃げました。そのすぐ後に、海がむくむくともりあがり、たちまち村をのみ込んでしまいました。村人たちは、長老の言う通り、全員が急いで逃げたので、誰一人として死なずにすみました。

命は助かりましたが、家はこわれ、畑も流されて、村にはガレキが散乱しています。大人たちが途方にくれていると、突然、子供たちが笑い出しました。「こんな時に、笑うとは何事じゃ」と、怒った村人たちが集まると、そこには、人間の物とは思えない、大きな「樽」が転がっています。「なんじゃこりゃ? 津波でわたらのものは何も残らなかったのに、こげん大きな樽がひとつだけあるぞ」と、誰かが言いました。すると、長老が「こりゃ、きっと、トンマの巨人の忘れ物じゃ」と、言いました。「そりゃええわい!」と、一人の村人が笑い出し、それにつられて、村人たちは、いつの間にか全員で「わっはっはっはっ」と、涙を流しながら笑いました。大声で笑うと、不思議と勇気が湧いてきます。畑はなくなりましたが、人々が食べ物に困ることはありませんでした。豊かな海の恵みにより、村人たちは力を得て、村の再建のため、働くことができました。

やがて新しい村ができました。樽のあったと言われる場所は、今も「おたるがした」と呼ばれています。

**PRESS RELEASE**

2020年2月3日

報道関係者各位



佐世保市「海ノ民話のまち」アニメが完成

認定委員長が朝長市長を表敬訪問し、完成アニメのお披露目

日時:2020年2月18日(火)17時00分~/場所:佐世保市役所

海ノ民話のまちプロジェクト実行委員会は、日本中に残された海にまつわる民話を発掘し、その民話のストーリーとその民話に込められた「想い」「警鐘」「教訓」を、親しみやすいアニメーションとして映像化しました。本プロジェクトは、次の世代を担う子供たちへ、そして、さらに次の世代へと“海”を語り継いでいくために始動しました。このたび、「海ノ民話のまち」として認定された佐世保市の朝長則男市長を、認定委員長をはじめとする実行委員会メンバーが表敬訪問し、「海ノ民話のまち」佐世保市を舞台に制作されたアニメ「一里島」の完成を報告する運びとなりました。

ご多忙の折、誠に恐縮ではございますが、万障お繰り合わせの上、取材いただきたくお願いいたします。

※「海ノ民話のまちプロジェクト」とは

日本財団が推進する「海と日本プロジェクト」の一環として実施。海と深く関わりを持つ日本という国の「海との関わり」と「地域の誇り」を、子供たちに伝え語り継ぐプロジェクトです。

※「海と日本プロジェクト」とは

2015年に「海の日」20回目を記念し、日本財団の主導で推進しているプロジェクト。次世代を担う子どもたちを中心として多くの方々に「海の日」の意義について認識を深めてもらうとともに、海への好奇心を持ってもらい、行動を起こすムーブメントを作り出すことを目指しています。

【公式サイト】

<http://minwa.uminohi.jp/>

【表敬訪問・概要】

日 時	2020年2月18日(火) 17時00分~17時30分
会 場	佐世保市役所 5階市長応接室 (佐世保市八幡町1-10)
出席者 (予定)	<ul style="list-style-type: none"> ・海ノ民話のまちプロジェクト実行委員会 認定委員長 沼田 心之介 様 ・佐世保市立図書館 館長 坂口 周一 様 ・佐世保観光コンベンション協会 事務局長 川口 裕樹 様 ・エスケイ・アイ・コーポレーション 代表取締役 中村 徳裕 様 ・テレビ長崎佐世保支社 松本 祐明
プログラム	1、完成アニメ上映 2、会談 3、フォトセッション

【海の民話のまちプロジェクト 活動概要】

3月1日(日)には佐世保市立図書館で民話にまつわるアニメ上映会やフィールドワークも予定。

<お問い合わせ先>

主 催：南城・海ノ民話のまちプロジェクト実行委員会事務局
 担当者：事務局 松本祐明
 電 話：0956-23-9371 メールアドレス：hiroaki@ktn.co.jp

佐世保市に伝わる民話 「一里島」



【長崎県佐世保市に伝わる民話「一里島」あらすじ】

長崎県は日本で最も多くの島があることで知られています。その数 594 島（県公式ウェブサイトより）。長崎県佐世保には 208 もの島からなる、豊かな自然に恵まれた、九十九島という海域があります。その九十九島のお話です。むかしむかし、美しい月夜の晩に、佐世保の沖にある 100 の島たちがのんびりと話しをしていました。島の大將の松浦島が「今夜は、みんなで集まって、久しぶりにのんびり酒を飲もうじゃないか」と言いました。まわりの島々も賛成し、移動を始め、佐世保湾の中に集まりました。島たちはお酒を飲んだりして、歌を歌って大いに宴を楽しみました。一番若い一里島は、初めての宴会に大喜び。宴会では、美しい景色に囲まれ、美味しいお酒と食べ物が次から次に振る舞われます。ここ（佐世保湾）はなんと居心地が良い所なのでしょう。一里島は、すっかりくつろいで、飲み過ぎてしまいました。しかし、夜が明ける前に元の場所に帰らなくては、島たちは二度と戻れなくなってしまいます。夜明けが近いことに気がついた大將の松浦島が「さあ、みんな、そろそろ帰るぞー！」と呼びかけましたが、酔って寝てしまった一里島だけは全く起きません。仲間の島々はどうすることもできず、一里島をおいて元の場所に帰りました。こうして佐世保湾の中に一里島だけがぼつんと取り残されています。その時、百あった島が一つ減ったので、人々は、九十九島と呼ぶようになりました。

**PRESS RELEASE**

2020年1月15日

報道関係者各位



南城市「海ノ民話のまち」アニメが完成
認定委員長が瑞慶覧市長を表敬訪問し、完成アニメのお披露目
 日時:2020年1月31日(金)14時00分~14時30分/場所:南城市役所

海ノ民話のまちプロジェクト実行委員会は、日本中に残された海にまつわる民話を発掘し、その民話のストーリーとその民話に込められた「想い」「警鐘」「教訓」を、親しみやすいアニメーションとして映像化しました。本プロジェクトは、次の世代を担う子供たちへ、そして、さらに次の世代へと“海”を語り継いでいくために始動しました。このたび、「海ノ民話のまち」として認定された沖縄県南城市の瑞慶覧長敏市長を、認定委員長をはじめとする実行委員会メンバーが表敬訪問し、「海ノ民話のまち」南城市を舞台に制作されたアニメ「奥武観音堂由来」の完成を報告する運びとなりました。

ご多忙の折、誠に恐縮ではございますが、万障お繰り合わせの上、取材いただきたくお願いいたします。

※「海ノ民話のまちプロジェクト」とは

日本財団が推進する「海と日本プロジェクト」の一環として実施。海と深く関わりを持つ日本という国の「海との関わり」と「地域の誇り」を、子供たちに伝え語り継ぐプロジェクトです。

※「海と日本プロジェクト」とは

2015年に「海の日」20回目を記念し、日本財団の主導で推進しているプロジェクト。次世代を担う子どもたちを中心として多くの方々に「海の日」の意義について認識を深めてもらうとともに、海への好奇心を持ってもらい、行動を起こすムーブメントを作り出すことを目指しています。

【公式サイト】

<http://minwa.uminohi.jp/>

【表敬訪問・概要】

日時	2020年1月31日(金)14時00分~14時30分
会場	南城市役所市長室(南城市佐敷新里1870)
出席者 (予定)	<ul style="list-style-type: none"> ・海ノ民話のまちプロジェクト実行委員会 認定委員長 沼田 心之介 様 ・NPO法人 沖縄伝承話資料センター理事長 照屋 寛信 様 ・南城市玉城奥武区 区長 中村 寛 様 ・南城市玉城奥武区 中村 正賢 様 ・琉球放送事業推進部 高良 誠
プログラム	1、完成アニメ上映 2、会談 3、フォトセッション

【海の民話のまちプロジェクト 活動概要】

2月1日(土)には奥武地区で民話にまつわるフィールドワークやアニメ上映会も予定しています。

＜お問い合わせ先＞

主 催：南城・海ノ民話のまちプロジェクト実行委員会事務局

担当者：事務局 仲本克之

電 話：080-6495-7050 メールアドレス：katsuyuki@rbc.co.jp

奥武地区に伝わる民話 「奥武観音堂由来」



【沖縄県南城市に伝わる民話「奥武観音堂由来」あらすじ】

琉球王国の周辺の海域は、様々な国の様々な船が忙しく行き交う、船の交通が活発なところでした。長い歴史の中で、沖縄の人々は、海を通して、多様な文化に触れてきました。

ある時、奥武島（おうじま）に、遭難した異国の船乗りたちがたどり着きました。島の人々は、彼らに着物を与え、焚き火で冷えた体を温めたり、お粥を炊いてあげたりして、手厚く介抱しました。聞けば、船乗りたちは唐の国の者たちで、船が難破して、この場所に流れ着いたのだといいます。

首里の王様に、唐から金の仏様が贈られてきました。手紙には「仏像を『奥武』に安置してほしい」と綴られています。「奥武」という場所は何箇所もあるので、王様が困っていると「玉城奥武島の人々が異国の船乗りを助けた」という話が伝わってきました。そこで、王様は玉城の奥武島に観音堂を建て、観音様を安置しました。

現在も、5年ごとに奥武観音堂祭が行われています。先祖の良い行いと、唐から送られた観音像が結びつき、海の神として島の人々を見守っています。

二次的展開



アニメーション完成報告表敬訪問
上映会・フィールドワーク
すべて新型コロナウイルスの影響で中止

二次的展開については協議中で具体的なものは現状なし。
※表敬訪問時に関係者で協議の予定でした。

<事前に提示いただいていた二次的展開案>

●七ヶ浜町内の学校で、授業の一環として活用
2/28の表敬訪問の後、町の教育長のお時間を頂戴しておりますので、その場でご相談する予定です。
なので、活用してもらえるかは、未定です。

●七ヶ浜町国際村（ロビー？）のモニターで放映。
モニターで七ヶ浜町国際村で行うコンサート、イベントなどの告知映像を放映しているので、その中にアニメも入れ込んでいただく予定です。概ね了解をいただけそうです。

●七ヶ浜町観光交流センターのモニターで放映。
概ね了解をいただけそうです。

小泉八雲記念館にて通年上映



市の広報誌に掲載 ※これから調整



<参考>

「広報やいづ」は、市や国・県・その他関係機関の情報などを市民の皆さんにお知らせするため、毎月1日（ついたち）に発行しています。発行日当日、新聞の朝刊に折り込んで市内各世帯に配布しています。また、各公民館やイオン焼津店、スーパー田子重・スーパー富士屋の市内各支店でも配架しています。新聞をとっていない人には、郵送しています。

草薙球場で行われる3/7（土）のプロ野球のオープン戦のビジョンでグラウンド整備中に放送

無観客試合に決定したため中止

市役所の災害対策講習会時に上映
※これから調整



※画像はイメージです

南海ラジオでのPR
※3月を予定



※画像はイメージです

地元有志の劇団で
「おたるがした」を演劇化し上演
※これから調整



※画像はイメージです

松山市の島々をつなぐ複数の
フェリー会社の待合室での上映
※これから調整



※待合室の様子

教育委員会主催の子供映画祭での上映
※これから調整



※画像はイメージです

中島文化祭での上映
※これから調整



※画像はイメージです

<参考>
瀬戸内海国立公園の中に浮かぶ中島(本島:中島大浦)にある施設で、地域学習や島の文化を紹介するコーナーが設けられています。
中島公民館と中島図書館が建物を共用しています。

九十九島観光クルーズバス 「海風」内にて上映 ※4月より実施予定



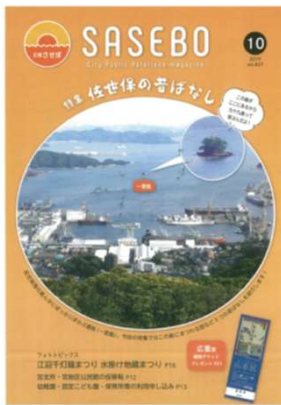
※画像はイメージです

パールシーリゾートと 長崎ペンギン水族館にて上映 ※4月より実施予定



※画像はイメージです

市の広報誌「SASEBO」に掲載 ※2019年10月号



月刊誌「ならでわ」に 掲載※2020年2月号



佐世保市立図書館に DVDを寄贈貸出 ※4月より実施予定



※画像はイメージです

南城市役所新庁舎の スクリーンにて通年上映



琉球放送で特番 ※3月28日を予定

3月28日(土) 15:49~16:00
 昨年の作品と合わせ
 10分番組で放送

沖縄伝承話資料センターの 読み聞かせの会(年3回)で上映



※画像はイメージです

南城市役所の公式HPで Youtube配信中



「奥武観音堂祭」にて上映 ※これから調整



<参考>

奥武島で島の守り神に感謝する『奥武観音堂祭』が観音堂前広場で行われます。5年に一度、島民総出で行われる祭で2020年11月に開催予定。

※休憩所となる公民館もしくはテントを設置して上映スペースを設ける等今後検討~調整。

その他

2018年度に認定された沖縄県名護市の民話「海の神と陸の神」がTwitterにて漫画化された

<https://twitter.com/00iiiiiee>

【その壱】



【その弐】



【その参】



【その四】



【完】



パブリシティ

